

**研 究 者：宇梶 淳平、林 真由子、鈴木 悠斗、田中 颯**

(所属：東京歯科大学 国際医療研究会)

**眞木 吉信** (所属：東京歯科大学 衛生学講座)

## **研究題目：ミャンマーにおける歯科研修プログラム**

### **目 的：**

日本の次世代の歯科保健・歯科医療を担う歯科学生が学生主体となって海外へ赴き、現地の歯科大学・歯学部や大学附属病院、歯科診療所を実際に訪問・見学・協力を行うことにより、学生の国際交流活動や海外の歯科事情への関心を高め、日本と海外の歯科保健・歯科医療を比較し、その違いについて理解を深めることを本事業の目的とした。また、ミャンマーで活動している日本人歯科医師との交流により日本人歯科医師が発展途上国でどのような貢献ができるかを学ぶことも合わせて目的とした。

### **対象および方法：**

#### **【日程】**

・平成 31 年 3 月 18 日（月）～3 月 23 日（土）

#### **【場所】**

・ミャンマー連邦共和国（ヤンゴン、ヤンゴン管区並びにマンダレー、マンダレー地方域）

#### **【活動】**

- ・ミャンマーでボランティア活動をされている松本敏秀先生との交流
- ・歯科大学・大学附属病院見学（University Dental Medicine-Yangon, University of Dental Medicine-Mandalay）

#### **【カウンターパート】**

Kyu Kyu Swe Win 教授（所属：University of Dental Medicine-Mandalay, Dept. of Oral & Maxillofacial Surgery）

#### **【参加者】**

・東京歯科大学 教員 1 名、国際医療研究会部員 4 名

### **結果および考察：**

活動は、2 回の事前学習会と 3 月 18 日から 3 月 23 日の 6 日間のミャンマー滞在より成る。本活動は、歯学部 4 年・宇梶淳平、林真由子、2 年・鈴木悠斗、田中颯の 4 名が参加した。

## 1. 事前学習会

2 回の事前学習会では参加者予定者がそれぞれテーマを決めて調べて PowerPoint でまとめて発表した。第一回ではミャンマーの歴史、文化など歯科以外のことについて調べ、第二回ではミャンマーの歯科や保険制度など歯学に直接関係があることをそれぞれ発表した。

## 2. ミャンマーでボランティア活動をされている松本敏秀先生との交流

3 月 18 日夕方のヤンゴン到着から 19 日の日中までは九州大学出身の松本敏秀先生と交流した。松本先生は一年の半分以上をミャンマーで過ごし、「歯ブラシ 1 本からの健康づくり」をスローガンに掲げながらミャンマーの各地で歯科治療、保健衛生指導、ミャンマー人歯科医師への研修会や治療機材支援、日本の医療機関とミャンマーの医療機関との連携支援と言った多岐に渡る活動をされている先生である。

松本先生がミャンマーでの歯科ボランティアの際に留意されていることは、松本先生の介入なしでミャンマー人が独自に治療、予防ができるように指導している点である。例えば、先生はミャンマーの各地でボランティア活動しているが、予防教育の理解が深まった地域では行く回数を少なくし、他の地域へ出かける時間を増やしている。そうすることにより、より多くの人の健康が、松本先生に依存することなく、ミャンマー人自身の行動で保つことができるようになるので、素晴らしい考え方だと感じた。

また、松本先生からは以下のようなミャンマーの基礎的な歯科事情を教わる事ができた。

- ・ミャンマーの歯科医師の分布状況は、最大都市ヤンゴンに約 70%、マンダレーに約 30%、それ以外の地区には、ほとんど歯科医師がいない。また地方には人口の多くが住むため、歯科医療にアクセスできない人が国内に多いことになる。
- ・ミャンマーには 2 つの歯科大学、それから 1 つの軍の歯科が存在する。前者は、6 年制なのに対し、後者は 3 年制であるため、6 年制の歯科大学を出た者に比べ、医療レベルは低めである。
- ・噛みタバコ（betel nuts、檳榔）に由来する口腔癌の罹患者が存在する。

## 3. University Dental Medicine-Yangon の訪問

3 月 19 日に University Dental Medicine-Yangon（以下：ヤンゴン歯科大学）を訪問した。

ヤンゴン歯科大学は 2 つのミャンマーの国立の歯科大学のうちのひとつで、1964 年に設立されている。ミャンマーでは一番歴史がある歯科大学である。

ヤンゴン歯科大学では衛生学の先生からミャンマーでの歯学系の資格と教育の仕組みを詳しく教わった。

- ・ミャンマーの大学入試は一生に一回であり、歯学部に行けるのは、上位層の人に限る。それ以外で歯科に携わりたい者は、理系の大学（看護師専攻）に 4 年行って、その後、2 年間のデンタルナースのコースに行く。よってデンタルナースは計 6 年大学に通うのに対し、歯学部は計 5 年大学に通う。
- ・歯学部 5 年が終わったあとは House officer（House Surgeon）という名前の 1 年間のインターンシッププログラムに携わる。

- ・デンタルナースの行える歯科治療の内容で驚いたのは、乳歯の修復や抜歯ができるという点である。
- ・ミャンマーは、日本のような国家試験がない。(卒業と同時に資格が授与される。)

国の資格制度は国によって大きく違うが、デンタルナースの資格はミャンマー独特のものであると感じた。

また、国立の歯科大学は治療費が市中のクリニックより安く、低所得者層が主な患者であるのも日本の大学病院ではない特徴であるだろう。



### 3. University of Dental Medicine-Mandalay の訪問

3月22日に University of Dental Medicine-Mandalay (以下：マンダレー歯科大学) を訪問した。

2000年に設立された比較的新しい、歯科大学である。ヤンゴン歯科大学と同じく、マンダレー歯科大学も治療費が市中のクリニックより安い。矯正が人気で都市部の女性で予約がいっぱいで一年待ちだそうである。私達が行った当日も若い女性たちが列をなしていた。

マンダレーの歯科大学の教授陣は全員ではないが東京医科歯科大学で博士号を取っていることが多いようである。東京医科歯科大学でなくても、日本で博士号を取ることは多いみたいだ。しかしながら、中国などの他のアジアの国も研究や臨床では台頭してきているので、日本もアジアから優秀な人材が集められるだけの水準を保てるかが課題であるだろう。また、マンダレー歯科大学の教授陣はヤンゴンでも自分のクリニックを開業している人が多いという。マンダレー-ヤンゴン間は飛行機で1.5時間、バスで10時間掛かるが、それでもミャンマーの最大都市ヤンゴンで開業するメリットがあるというのは驚きである。

また、国立大学であるにもかかわらず、Sensodyne 社や Colgate 社をスポンサーとして迎えているのも日本の国立大学では見られないような光景であった。



## 感想：

発展途上国であるミャンマーの歯科医療、医療設備、教育を見ることで、日本人として何が協力できるかを考えさせられる機会であった。私達は学生のため、まだ多くのことはできないかもしれない。しかしながら、日本の国民の歯科医療と保健指導だけでなく、ミャンマーを含めた世界の人々に何ができるかを考えるべきなのだろう。

## 成果発表：（予定を含めて口頭発表、学術雑誌など）

- ・東京歯科大学国際医療研究会 報告書発行 2019年5月を予定
- ・歯科保健医療国際協力協議会（JAICOH）第30回総会 発表 2019年7月6、7日 東京
- ・東京歯科大学学園祭（東歯祭）ポスター発表 2019年10月26、27日